

第12回中国四国地区 国立病院機構・国立療養所 看護研究学会に参加して

緩和ケア病棟 内田 真理子

去る9月3日(土)、米子コンベンションセンターにおいて、第12回中国四国地区国立病院機構・国立療養所看護研究学会が開催され、『「遺族への手紙」の取り組みからみえる緩和ケア病棟看護師の思い』について、発表しました。大きなホールの壇上上がり、大勢の人前で発表するのは、とても緊張するものでした。ご遺族へのケアは、緩和ケアにおいて重要な要素の一つです。当院は平成22年12月より「遺族への手紙」に取り組んでいます。入院中の患者様・ご家族の皆様の様子から、ご遺族の現在のお気持ちを察して綴るお手紙は、看護師にとって様々な悩みがありました。ご遺族の思いを癒せる言葉が見つからず、手を合わせる事が精一杯で、お手紙にできなかったケースもあります。大切なご家族を亡くされたご遺族の方々の心情を思い、生きる力を応援したいという思いから、看護師間で話し合い工夫をしながら「遺族への手紙」を続けています。

手紙に取り組むことで、事例を振り返り、今後の課題も見え、遺族(家族)ケア向上への契機ともなっています。遺

族ケアの向上のためには家族ケアの充実が重要であると、今回の研究から再確認しました。また、退院後のご遺族の悲嘆の回復過程が伺える機会が、時々あります。悲しみを乗り越えたご遺族の姿に接するのは、緩和ケアに携わる看護師の醍醐味であり、遺族ケアを継続していく励みになっております。今後も「遺族への手紙」を絶やさず継続していきたいと考えております。

9月は「稲刈り」とも言われています。米子への道すがら、金色に輝いていた田んぼが、帰りには黒い土が見え隠れし、稲刈りが終わられた跡が伺えました。数年前に亡くなった父を中心に、家族総出で行った幼き頃の稲刈りの光景が蘇りました。父との思い出は私の生きる力になっています。

もうじきお手紙を書く頃と、思いを馳せるある患者様とご家族(ご遺族)の思い出…それはお花見会、面会時の患者様の言葉・笑顔など…「思い出は力なり」と言います。今後も患者様とご家族との時間がよい思い出となるように、一生懸命に関わっていこうと考えています。

第12回
中国四国地区
国立病院機構・
国立療養所
看護研究学会

看護実践力を高める
～心と技を語る、つなぐ～

日程 平成28年9月3日(土)

会場 米子コンベンションセンター

